

## 区内医療機関が実施した区肺がん検診における「肺がん見落とし」 原因究明と再発防止に向けて外部検証等委員会を設置

杉並区内の医療機関である社会医療法人河北医療財団河北健診クリニック（高円寺南 4-27-12）が実施した胸部エックス線検査において、肺がんの「見落とし」があり、平成 30 年 6 月、40 歳代女性がお亡くなりになりました（7 月 17 日記者会見等により公表済み）。

亡くなられた方は、平成 26 年・27 年に受診した職場の成人健診での見落としのほか、続く平成 30 年に受診した区肺がん検診においても見落としがあったことから（すべて同クリニックで受診）、区では区内部での肺がん検診のあり方の検討のほか、公正かつ中立な立場から専門的な知見に基づき検証し、原因究明と再発防止に向けた措置について調査審議するため、区長の附属機関として新たに外部の委員による検証委員会を設置することを予定しています。今後、設置に向けて区議会臨時会を開催し、条例案等を提案します。

### 1 これまでの経過（7 月 17 日記者会見等で公表済み）

亡くなられた方は、河北健診クリニックにおいて、平成 26・27 年に受診した職場の成人健診での胸部エックス線画像に、腫瘤影があるにもかかわらず「異常なし」と判定され、また、平成 30 年 1 月に受診した区肺がん検診の胸部エックス線画像においても「異常なし」と判定されました。平成 30 年 4 月、呼吸困難等で他院に救急搬送された際、胸部エックス線と胸部単純 CT を撮影したところ腫瘤影を指摘されたため、後日、河北総合病院で受診した際、過去の胸部エックス線画像を確認したところ、「見落とし」が判明しました。その後、5 月に脳梗塞で河北総合病院に救急搬送され入院し、後に転院し、肺癌と診断されて治療を続けましたが、平成 30 年 6 月に逝去されました。

### 2 区の対応

#### （1）区肺がん検診における胸部エックス線画像の再読影

河北健診クリニックが指定医療機関（院内で二重読影体制が確保できると医師会が認めた医療機関）となった平成 26 年 9 月以降に同クリニックで区肺がん検診を受診した約 9,400 名について、胸部エックス線画像の再読影を同クリニックに要請し、実施しました。再読影の結果「要精密検査」となった 44 名全員との連絡も完了し、現在、個別に必要な対応を行っています。



(2) 河北健診クリニックでの区肺がん検診の実施体制の変更

区と杉並区医師会で協議し、平成30年度と同クリニックでの区肺がん検診については、胸部エックス線撮影及び一次判定は同クリニックで、二次判定、総合判定は杉並区医師会で行う体制に改めました。

(3) 今後の再発防止策

- ①区肺がん検診実施マニュアルの遵守の徹底を通知する等、当面の対策を講じます。
- ②区としてこれまで精度管理を担ってきた杉並区がん検診精度管理連絡会において肺がん検診のあり方について検討を進めます。
- ③公正かつ中立な立場から専門的な知見に基づき検証し原因を究明するとともに、再発防止のために講ずべき措置について調査審議し、精度管理の向上等を図るため、新たに外部の委員による検証委員会を設置します。

【臨時会日程】

8月21日(火)	午前10時	本会議(議案提案等)
	本会議終了後	保健福祉委員会(条例案審議)
	保健福祉委員会終了後	総務財政委員会(補正予算案審議)
22日(水)	午前10時	本会議(議決等)

新たに設置する予定の検証委員会は学識経験者等の4名で組織し、区が実施する肺がん検診の精度管理に関する事項その他のがん検診に関する事項について区長へ答申することとしています。また、がん検診に関する事項その他適正ながん対策の実施等区民の健康の確保及び増進のために必要な事項について、意見を述べることもできるとしています。

---

【問い合わせ先】

杉並保健所健康推進課：03-3312-2111 内線4528